CIAO 1.0 User's Guide
(暫定版)

2003.03.01

目次

はじめに...3
1.基本的な使用方法
(1)準備...4
(2)セットアップとディレクトリ構造...5
(3)CIAOで使用するファイル...6
(4)画面構成...7
2. Setting 画面機能説明
(1)操作方法...8
(2)Setting ファイル...9
(3) ファイルの保存と選択...10
3.プルダウンメニュー機能説明...11
4.映像操作(ControlPanel＆ReferenceText&Caption) 機能説明
(1)各部名称およびControl panel機能...12
(2)マルチアングル機能...13
(3) Reference TextおよびCaption...14
5. Time Stamp＆Memo編集機能説明...15
6.Operation log機能説明
(1)操作履歴の記録と再生...16,17
(2)ログファイルの記録内容...18
7.アラート表示

はじめに

CIAO（Collaborative Implement for Active Observation）は、ビデオ記録の観察や分析を支援するツールとして開発された教育・研究用ソフトウェアです。このソフトウェアは、 Quick Timeムービー形式のビデオ・ファイルを最大３つまで読み込み、それらを同期提示したり、任意のビデオ場面にテキストデータを自由に対応づけたりするなど、従来のビデオテープにはない多彩なプレゼンテーションや記録内容の分析を実行することができます。特に、人間の諸行動の観察をベースにした次のような教育・研究活動を効率的にすすめることができます。

・カウンセラー教育、教師教育における観察学習（モデリング）やケース・スタディなど
・エスノメソドロジー研究（会話分析など）、認知心理学研究（プロトコル分析など）、ユーザビリティ研究など

本マニュアルでは、CIAOの基本的な操作と機能について説明しております。
ただし、現時点（2003年３月1日）では暫定版です。今後、ユーザーのみなさまのご意見を伺いながら、改善していく予定です。

＜CIAOの入手方法＞
CIAOは無償公開しております。CIAOサポートサイトでメンバー登録していただくと、ダウンロードすることができます。
また、株式会社誠信書房から刊行予定の「マルチメディアで学ぶ臨床心理面接の実際（仮）」（倉光修・宮本友弘編， 2003年９月刊行予定）の付録CD-ROMにも収録されます。なお、CD-ROM版には、臨床心理面接のCIAO用データもあわせて収録されております。

＜研究成果の公表について＞
本ツールを用いて行った教育・研究の成果を、論文等において公表する際には、「CAIO」を利用した旨を表記していただきたく存じます。表記の仕方については下記までお問い合わせください。

＜ご評価をお寄せください＞
今後の改善を図るために、CIAOサポートサイト上には、評価用のページを用意しております。 CIAOの評価（良い点、改善点など）、ならびに、マニュアルの評価について、お聞かせください。

＜BBSをご利用ください＞
CIAOサポートサイト上には、ユーザー専用のBBSを設置しております。CIAOのユニークな使用法など、みなさんの意見交換の場としてご利用ください。

＜お問い合わせ＞
本ソフトの使用上不明な点、またマニュアル通りに作動しない場合には、下記までご連絡ください。その際ご利用マシンのOS、機種名、CPU､およびQuickTimeのバージョンをお知らせください。またマニュアル通りに作動しない場合は、どんな場所で、どんな症状が起こるか、再現性（繰り返し起こるか）の有無をお知らせください。なお、場合によっては、返信にお時間がかかりますこと、あらかじめご了承ください。また、CIAOサポートサイト上のFAQのページに随時、反映させていきます。

連絡先　E-mail: ciao@nime.ac.jp

■商標について

Quick Timeは米国Apple Computer Inc.、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他本マニュアルに記載の会社名、商品名、ロゴは各社の商標または登録商標です。

■免責事項
本マニュアルの内容については万全を期して作成しておりますが、本マニュアルの内容に従ってCIAOを使用した結果による損害については、本マニュアルの誤りや欠落に起因するかどうかどうかに関わらず、一切の責任をおいかねますので、予めご了承ください。

1.基本的な使用方法

(1)準備

①動作中のアプリケーション、スクリーンセーバー等を全て終了して下さい。

②本プログラムで映像ファイルを再生させるためには、Apple社のQuickTime（バージョン5以上：MPEG4のムービーを再生させるためにはバージョン6以上）が必要です。ご利用のマシンにインストールされていない場合は、http://www.apple.co.jp/quicktime/download/よりダウンロードしてください。

③ご利用のマシンが以下の動作環境を満たしているかご確認ください。

- OS　Windows 98, Windows 98SE, Windows 2000, Windows Me, Windows XP
- CPU　Pentium3 800Mhz以上
- RAM　64MB以上
- モニタ　32000色以上　解像度1024×768pixl以上
- サウンドボード　サウンドブラスター互換ボード

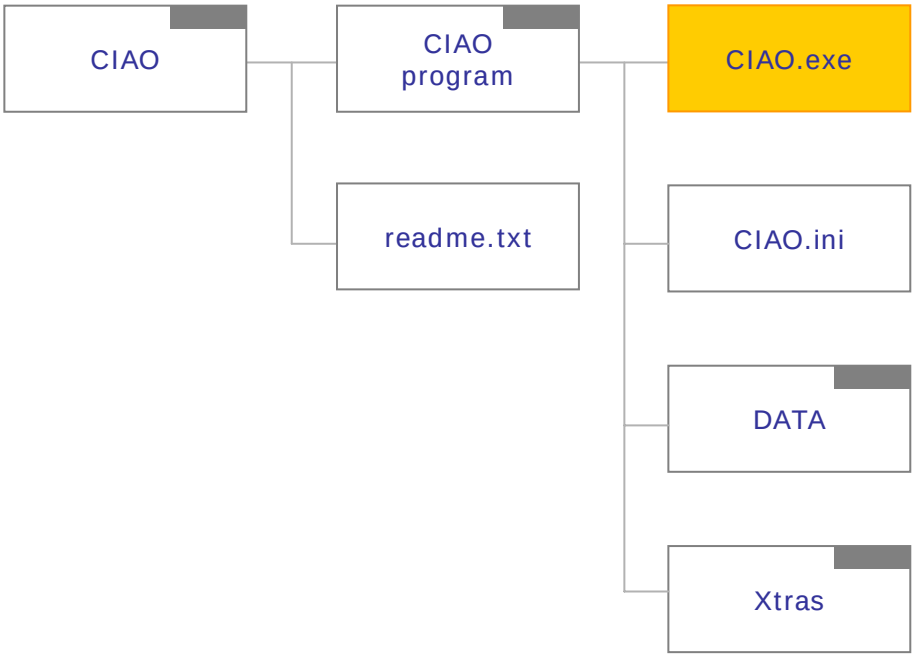
＊ハードディスクの必要な空き容量は、ご利用になる映像ファイルの容量によって異なります。

＊上記の環境を満たしていても、グラフィックボード等の性能によって、映像再生時に動作が不安定になる場合があります。

1.基本的な使用方法

(2)セットアップとディレクトリ構造

以下のデータをダウンロードできます。プログラムの改変、ディレクトリ構造の変更をしないでください。



セットアップ方法

①CIAOプログラムをCIAO サポートサイトよりダウンロードしてください。ZIP圧縮しておりますので、お手持ちの解凍ソフトで解凍してください。[CIAO]のフォルダができます。

②映像ファイル等のセッションデータを準備し、任意のディレクトリに格納してください。

③ [CIAOprogram]フォルダ内の[CIAO.exe]ファイルをダブルクリックしてください。本ソフトウェアが起動します。

＊ご使用にあたっては、必ず「readme.txt」をお読みください。

1.基本的な使用方法

(3)CIAOで使用するファイル

ファイルの名称	概要	形式
ムービー movie	CIAOで再生するビデオ・データ　＊必須	Quick Timeムービー （＊.mov）
参照テキスト reference Text	Reference Text画面に表示するテキスト・データ	タブ区切りテキスト （＊.txt）
セッティング setting	セッティング画面で行ったファイル設定の記録	テキスト （＊-set.txt）
メモ memo	メモ機能で作成されるファイル。Reference Textファイルと互換。	タブ区切りテキスト （＊.txt）
ログ log	ログ機能で作成されるファイル	テキスト （＊-log.txt）

①CIAOでは上の表にある５種類のファイルを使用・作成します。詳細は次ページ以降で解説しております。

②CIAOを実行するには、movieファイルは必ず必要となりますので、予め用意してくだい。

③CIAOでは、QuickTimeプレーヤ（ver.5以上）が対応するファイル形式なら基本的に再生・表示可能ですが、 Quick Time ムービー・ファイル（MOVファイル）以外、動作を保証しておりませんのでご注意ください。

【参考】 Quick Time ムービー・ファイルの作成時の設定
＊ひとつの目安にすぎません。ご利用目的や使用環境に応じて、十分吟味してください。

■ビデオ
サイズ：320×240ピクセル
圧縮プログラム（CODEC）：Sorenson Video 3
フレーム／秒：15フレーム
基準フレーム単位：15フレーム
データレートの制限：80KB/秒
■音声
圧縮プログラム：なし
レート：22.050kHz
サイズ：16ビット
出力　：モノラル

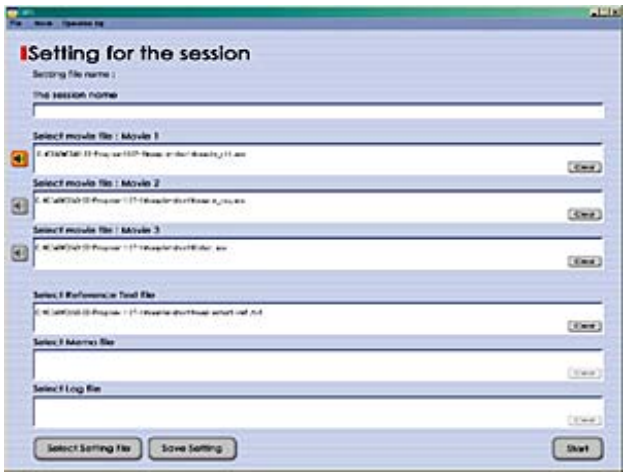
1.基本的な使用方法

(4)画面構成

本ソフトウェアは、以下のような画面で構成します。

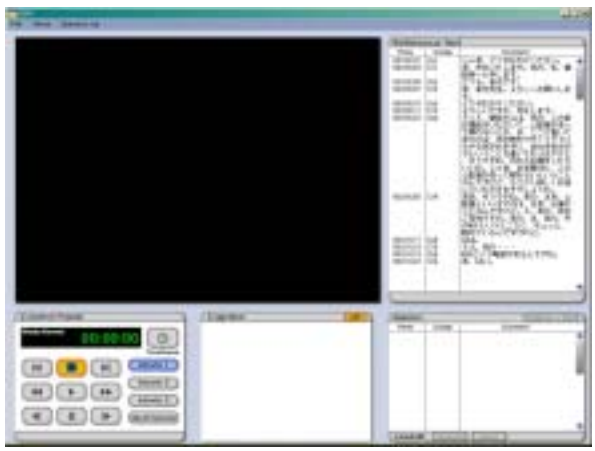
Setting 画面

CIAOで使用するファイルを設定します。ムービーファイルやテキストファイルを外部から読み込み、その設定を保存することができます。



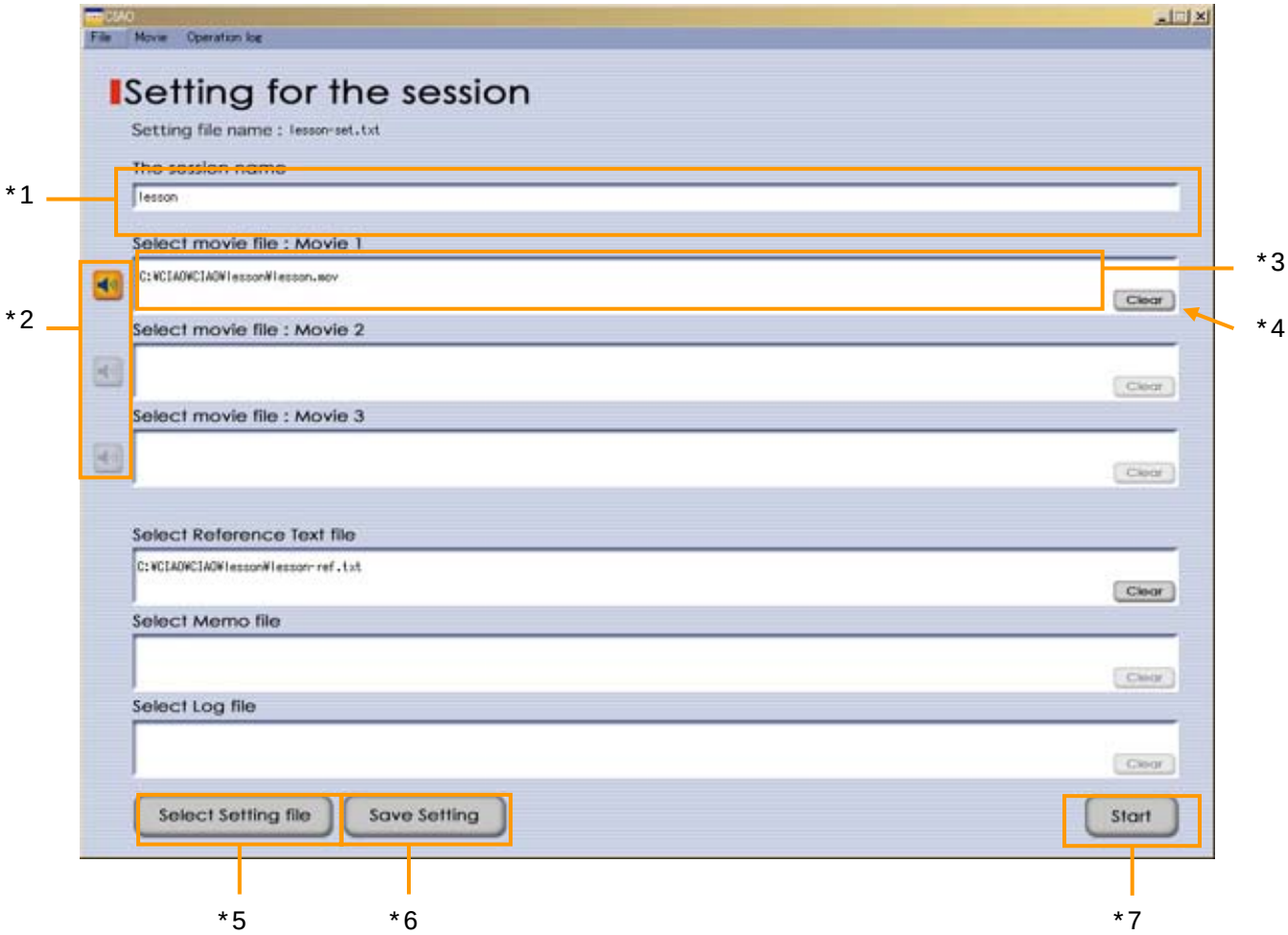
Session画面

マルチアングル映像の再生、参照テキストと映像の同期、メモ編集、映像操作履歴のファイル記録等の機能を持ちます。



2. Setting 画面機能説明

(1)操作方法



*1　The Session name:セッションの名前（当該の学習や分析のタイトルなど）を任意に入力可能です。

*2　音声割り当てボタン:再生時のmovieファイルの音声を選択することが可能です。

*3　Select fileボックス:シングルクリックで、ファイル選択のダイアログが表示されます。

*4　Clearボタン:選択したファイルをキャンセルします。

*5　Select Setting fileボタン:setting fileを選択します。

*6　Save Settingボタン:設定を保存することが可能です。初期表示では[セッション名-set.txt]でファイル名が表示されます。
（ファイル種別を判断しやすいよう、 [-set.txt]を残したままにしてください）

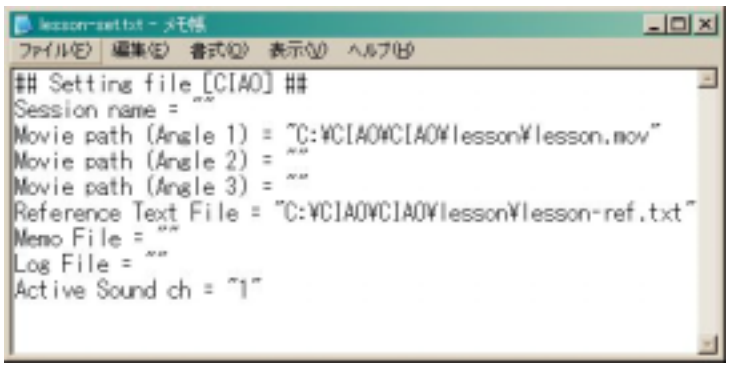
*7　Startボタン:設定を終えたら、クリックしてください。Session画面へ移行します。

なお、Sessionを開始するには、movieファイルを１つ以上読込む必要があります。

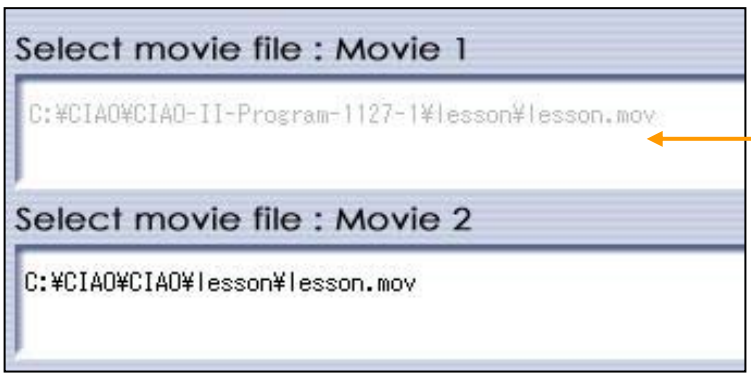
2. Setting 画面機能説明

(2)Setting ファイル

settingファイル（*-set.txt）は、任意のフォルダ内にあるファイル構成を記録し、 settingファイルを読み込むことでセッションのファイル構成を再現できます。また、session画面の作業で作成したファイルを適宜追加することができます。



ファイル構成を記録（Save setting)したのちに、ファイル名やディレクトリを変更し、該当settingファイルを読み込んだ（Select setting)場合、パスが切れるためファイルを読み込むことができません。
その場合、ファイル構成を変更してください。



パスが切れている場合、文字がグレー表示になります。

ボックスをシングルクリックして、各種ファイルを選択し直してください。

ファイル選択の際に開くフォルダについて

①CIAO起動最初にファイルを開く場合、CIAO.exeが入っている一階層上のフォルダが開きます。

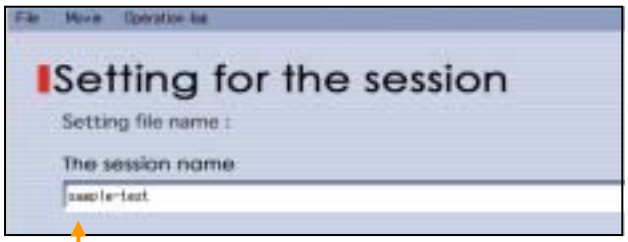
②２回目以降は、直前に開いたフォルダが開きます。

③すでにファイルを選択し、再度選択しなおす場合は、表示されているファイルが入っているフォルダが開きます。②より③の規則が優先されます。

2. Setting 画面機能説明

(3) ファイルの保存と選択

セッション名を入力すると、ファイル保存のダイアログで下記のようにファイル名にセッション名が初期表示されます。同一セッションで作成したファイルの管理をしやすくした仕様となっています。



Sample-testと入力

Save settingのダイアログでは、
[sample-test-set.txt]と初期表示される

なお、保存ダイアログでの初期表示は、ファイル種別によって以下のようになっています。
(CIAO上で作成・保存が可能なファイル種別のみ)

Setting file…セッション名＋set.txt

Log file…セッション名＋log.txt

Memo file…セッション名＋.txt

拡張子の前に認識しやすいファイル名を表示しています。もちろんファイル名は、ユーザーの任意に作成、変更が可能ですが、上記機能はファイル選択とも連動していますので、セッション名に該当する部分のみを変更することをお勧めします。

ファイル選択について

下記のように、ファイル種別ごとに選択ダイアログで拡張子およびファイル名によって選択するファイルをしぼりこんでいます。

Movie選択の場合

拡張子が[.mov][mpg][mpeg][mp4]のファイル（MOVファイルとMPEGファイル）を絞り込んで表示します。なお、動作を保証しているファイルはMOVファイルのみです。

それ以外のファイルを選択したい場合は、[*]を入力しエンターキーを押してください。

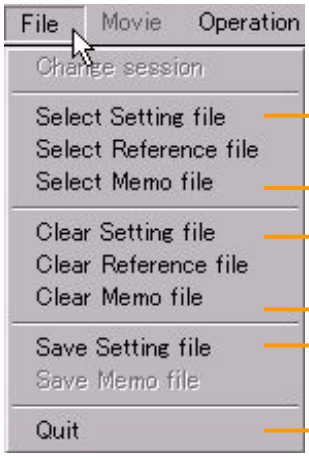
その他のファイルは種別ごとに以下のようなファイル名および拡張子でしぼりこんでいます。

Setting file：-set.txt
Log file：-log.txt
Reference file：.txt
Memo file：.txt

上記以外のファイル名を選択したい場合は、 [*]を入力しエンターキーを押してください。
（但し、それぞれのファイル種別に適ったファイルでないと正常に動作しません。
→アラート一覧（P.19)参照）

3.プルダウンメニュー機能説明

Setting 画面で選択可能なプルダウンメニュー



Setting,Reference,Memoファイルを選択します。

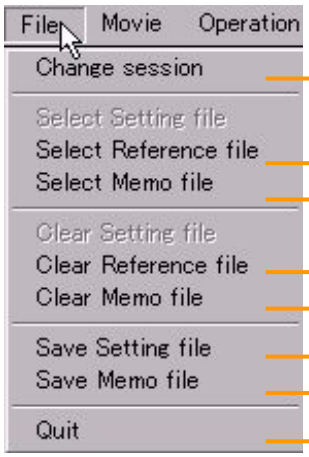
Setting,Reference,Memoファイルをクリアします。

Settingファイルを保存します。

本ソフトウェアを終了します。

Logファイルを選択します。

Session画面で選択可能なプルダウンメニュー（映像停止時のみ）



Setting画面へ戻り、セッションの変更ができます。

Reference,Memoファイルを選択します。

Reference,Memoファイルをクリアします。

Reference,Memoファイルを保存します。

本ソフトウェアを終了します。

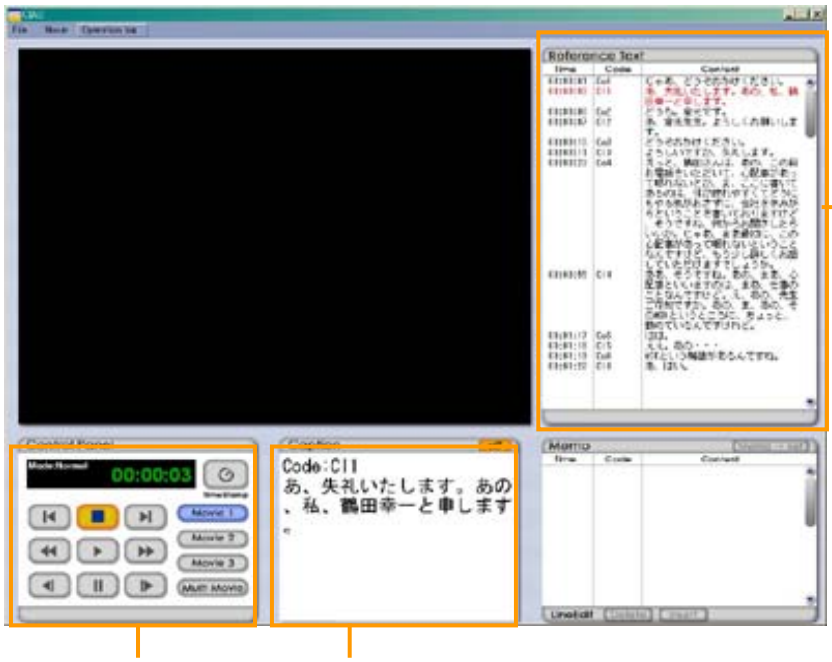
表示するムービーファイルを選択します。

→Operation logについては「Operation log機能説明」(P.16〜17)を参照してください。

4.映像操作(ControlPanel&ReferenceText&Caption) 機能説明

(1)各部名称およびControl panel機能

各部名称



＊1:Control panel

機能およびキー割り当て（[ ]内に表示）

なお、日本語入力時はキー割り当てが無効になります。

Topへ [Q]	停止 [W]	Endへ [E]
巻き戻し [A]	再生 [S]	早送り [D]
スロー戻し [Z]	一時停止 [X]	スロー送り [C]

コマ戻し[←]　コマ送り[→]

TimeStamp [R]

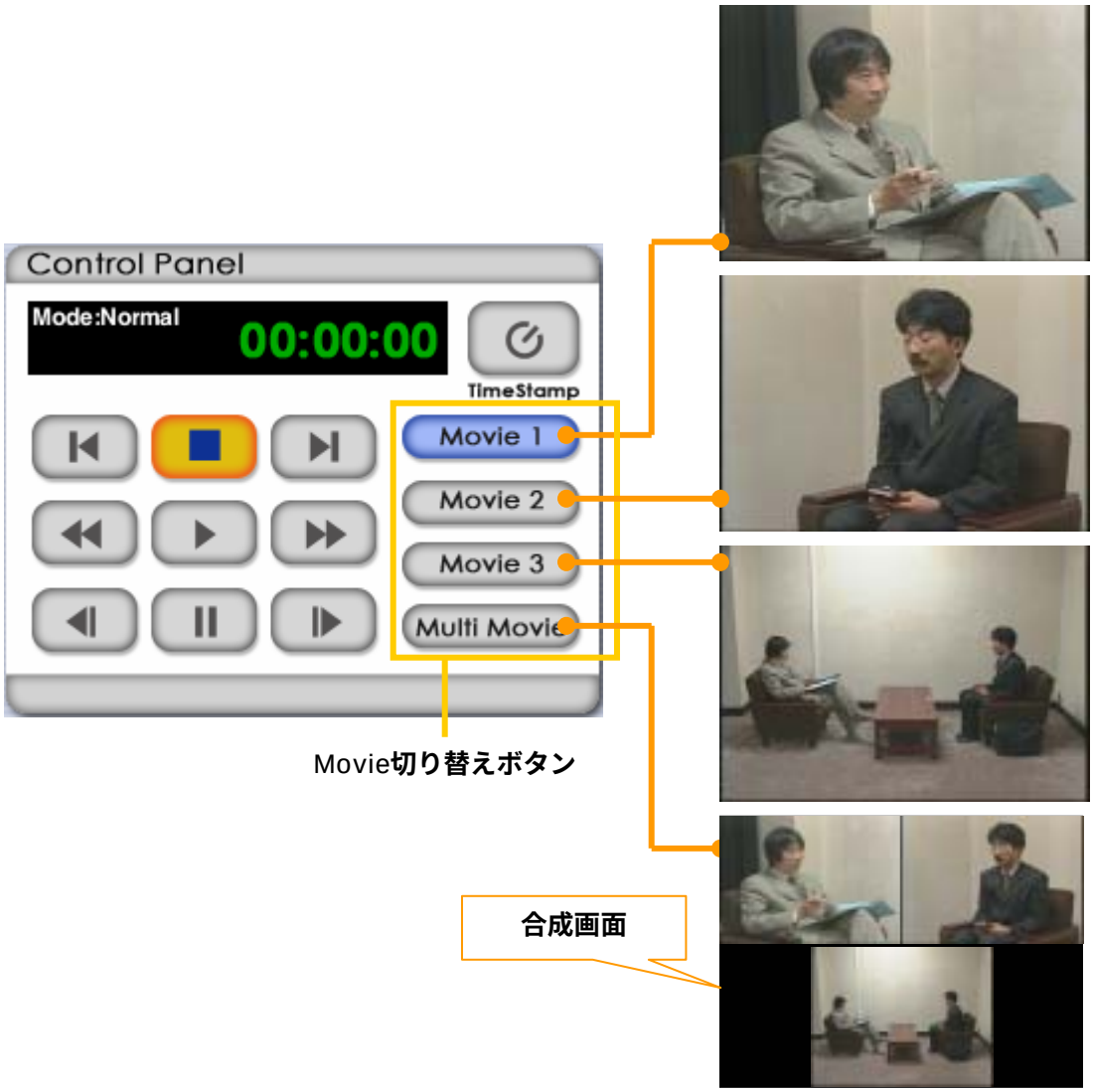
Movie切り替え[1]
[2]
[3]
合成画面 [4]

4.映像操作(ControlPanel&ReferenceText&Caption) 機能説明

(2)マルチアングル機能

3つまでの映像を同期再生させながら、画面を切り替えることができます。

なお、画面例はカウンセリング場面のビデオ記録です。



①時間長の同じmovieファイルを2つ以上読込んだ場合、マルチアングル機能が使用できます。

②各ファイルは同期再生され、movie切り替えボタンで、表示を切り替えられます。

③movie切り替えボタン1～3は、setting画面のSelect movie fileボックスのMovie1～3に対応しています。

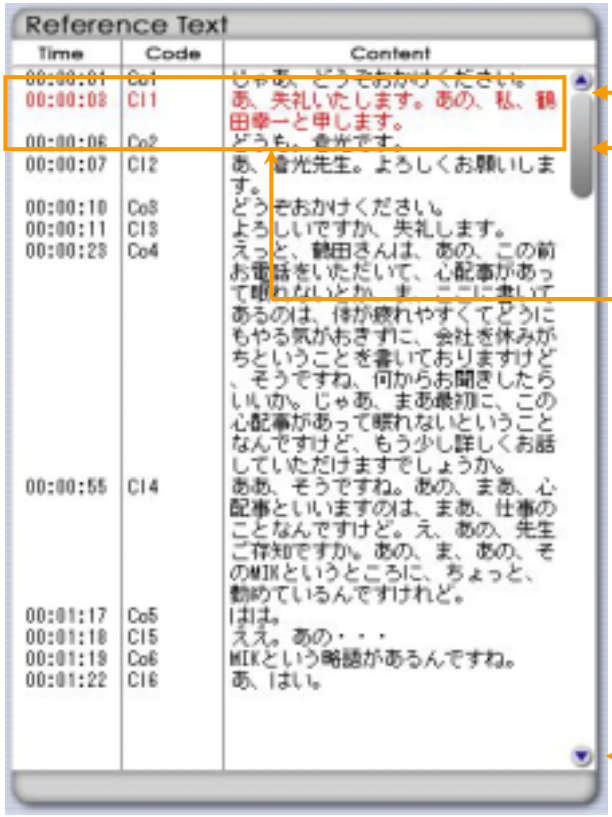
④ movie切り替えボタン4は合成画面となります。上左がMovie1、上右がMovie2、下中央がMovie3になります。

なお、movieファイルはどのようなサイズであっても、640×480で表示されます。合成画面では、それぞれ320×240となります。

4.映像操作(ControlPanel&ReferenceText&Caption) 機能説明

(3) Reference TextおよびCaption

＊2: Reference Text
タイムコードを単位にして、映像とテキストを連動させることができます。
なお画面例はカウンセリングの逐語記録です。



行戻しボタン

スクロールバー

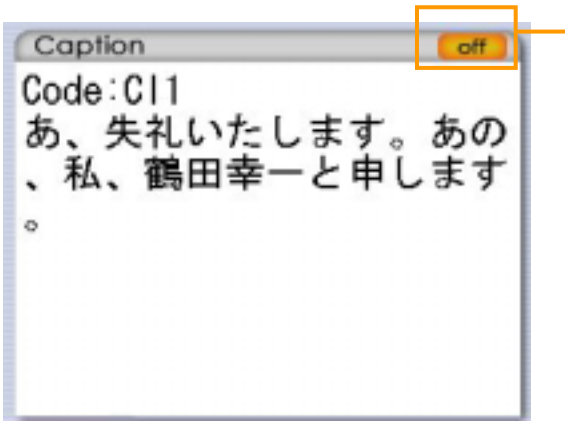
＊映像再生時には、行戻し/送りボタン、スクロールバーは機能しません。

映像再生時、該当タイムコードのContentが赤色表示になります。（映像再生と表示の同期）

タイムコードをクリックすると映像の頭出しができます。

行送りボタン

＊3: Caption
映像場面に対応づけされたテキストを字幕表示できます。



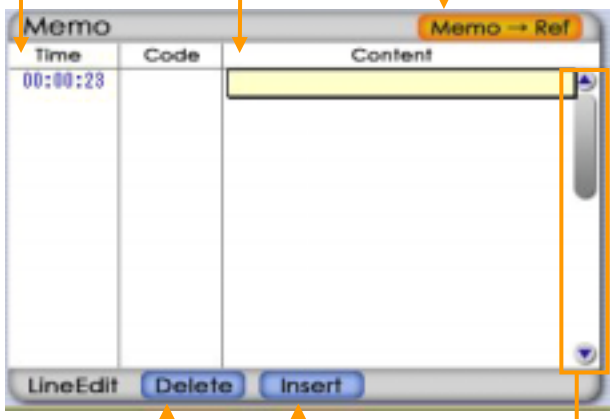
キャプション画面の開閉（on/off）ボタン

映像再生時、ReferenceTextの該当タイムコードのCode,Contentを表示します。（映像再生と表示の同期）

1タイムコードにつき、6行×12文字分のContentを表示します。それ以上文字数がある場合は、「…」で表示します。

5. Time Stamp＆Memo編集機能説明

任意の映像場面にタイムコードを単位にしてテキストを対応づけする機能です。



ダブルクリックして選択すると青色表示になります。（上書きされる）

ダブルクリックして選択すると入力ボックスを表示します。（文字編集が可能）

＊1：memo→refボタン

行削除：削除したい行をクリックで選択し、Deleteボタンを押してください。

行挿入：クリックで選択し、Insertボタンを押してください。1行上に挿入できます。

行送り/戻し、スクロールバー

映像再生時でもメモ編集は可能ですが、入力時に負荷がかかるため、キー操作は丁寧に行って下さい。

メモファイルを新規作成する場合

①はじめに [TimeStamp]ボタンをクリックして該当タイムコードを記録してください（Time 欄が記録されている行のCode、Content欄が、入力可能になります）

②Codeの入力は、半角8文字、全角4文字までの制限があります。

③Time 欄が記入されている行のCodeとContent欄をダブルクリックしてください。文字入力ボックスが表示されます。もう一度クリックするとカーソルが表示され、入力が可能になります。

④Time 欄、 Code/Content欄ともダブルクリックをすると選択されます。上書きが可能です。

⑤入力後、プルダウンメニュー[File]の[Save Memo File]を選んで、ファイルを保存してください。「タブ区切りテキスト」の形式で保存されます。

既存のファイルを読み込み、編集する場合

①読み込めるファイルは、3列以内のタブ区切りテキストファイルです。Code欄にあたる2列目は、半角8文字全角4文字以内にしてください。

②Time欄：ダブルクリックすると青色表示になり、TimeStampボタンをクリックすると上書きできます。選択しない場合は、後ろの行に追記されます。

③Code,Content欄：ダブルクリックした行の文字編集ができます。

④入力後、プルダウンメニュー[File]の[Save Memo File]を選んで、ファイルを保存してください。ファイル名を同じにすると上書きされ、新たにファイル名をつけると別名保存が可能です。

＊1:Memo→refボタン機能

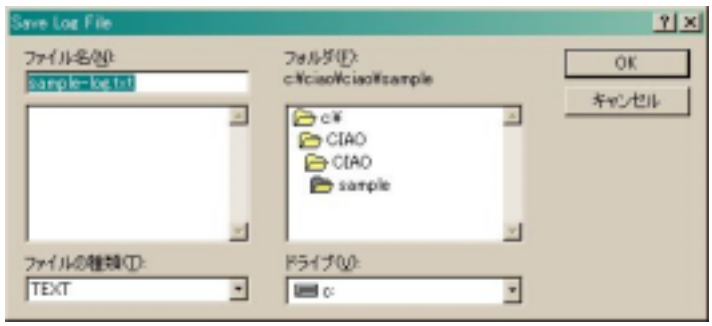
メモファイルをReference Textのエリアに送って表示することができます。ファイル名をつけて保存、上書き保存ができます。キャンセルを押した場合は、保存されずにReference Textのエリアに表示されます。

6.Operation log機能説明

(1)操作履歴の記録と再生

映像の操作履歴をファイル記録し、再現する機能です。

①記録開始　映像停止時にプルダウンメニュー[Operation log]から[Record start]を選択してください。ファイルを作成するダイアログが表示されますので、ファイル名をつけ、logフォルダに保存してください。　タイムコードカウンターの表示がRecordingとなり、この時点からのControl panel及び、Reference Textの頭出し操作を記録します。



②記録終了　映像停止時にプルダウンメニュー[Operation log]から[Record end]を選択してください。タイムコードカウンターの表示がNormalとなります。

③記録の再生-ファイル選択　映像停止時にプルダウンメニュー[Operation log]から[Select log file]を選択してください。ファイルを選択するダイアログが表示されますので、ファイルの選択をしてください。

6.Operation log機能説明

(1)操作履歴の記録と再生

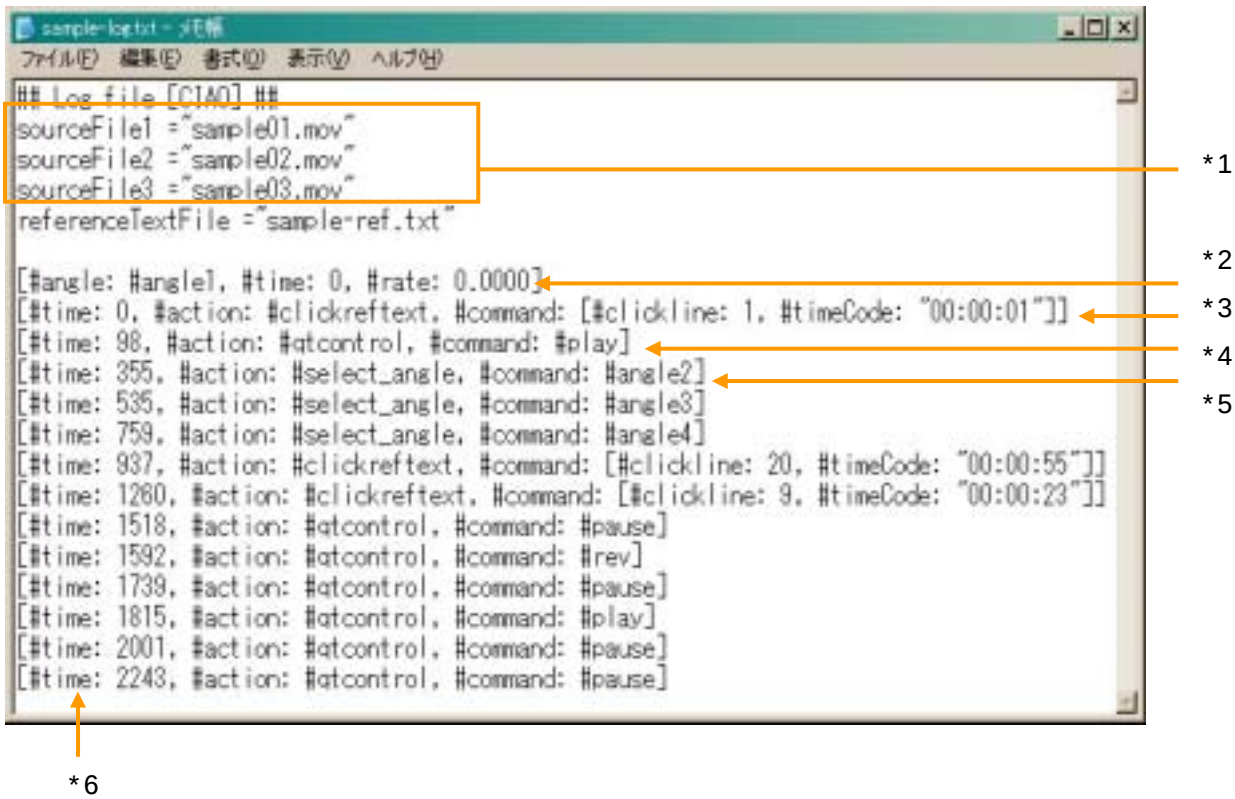
④ログ再生開始　映像停止時にプルダウンメニュー[Operation log]から[Log Replay]を選択してください。タイムコードカウンターの表示がLog Replayとなり、ログ再生を開始します。

⑤ログ再生の一時停止、終了　ログ再生時にプルダウンメニュー[Operation log]から[Replay pause]を選択すると、ログ再生を一旦停止できます（再生を開始するときは[Log replay]を選んでください）。タイムコードカウンターの表示はLog Replay-Pauseとなります。

ログ再生を終了させたい場合は、プルダウンメニュー[Operation log]から[Replay end]を選択してください。

6.Operation log機能説明

(2)ログファイルの記録内容



*1：ログに記録するファイルのファイル名を記載

*2：開始地点の記録　開始アングル（再生ムービー選択）と開始時間

*3：#clickreftext,#command:[clickline:1#timeCode:”00:00:01”]]

　　＝reference textの1行目00：00：01をクリック

*4：#qtcontrol,#command:#play=コントロールパネルの再生ボタンをクリック

*5：#select_angle,#command:#angle2=再生ムービーをMovie2に変更

*6：#time＝アクションのあった時間（単位は60分の1秒）を記録

なお、ログファイルを手動で書き換えた場合、動作に支障をきたすおそれがあります。

7.アラート表示

Setting画面等で選択したファイルが適切でない場合、以下のようなアラートが表示されます。ファイルをご確認の上、選択しなおしてください。

アラート	状況
Log file does not match session.	sessionのファイル構成と、ログファイルに記載されたファイル構成が異なる場合
No movie file.	セッション画面でムービーが選択されていない場合
This is not log file.	log ファイル形式でない場合
This is not setting file.	settingファイル形式でない場合
This is not memo file.	memoファイル形式でない場合
This is not reference file.	referenceファイル形式でない場合

なお、¥/:,;*?@<>|の文字はファイル名として使用できません。ご注意ください。

CIAO 1.0 User's Guide
2003年3月1日　発行
作成　宮本友弘・加藤浩

＊教育・研究目的以外での本マニュアルの
無断複製・転載は固く禁じます。

© 2003 Tomohiro Miyamoto & Hiroshi Kato All rights reserved.